

○ インバウンド対応で外食向けにパーツ販売、今年度9千頭出荷計画—TOKYO X

東京のブランド豚「TOKYO X」の流通・販売関係者で組織するTOKYO Xアソシエーション（植村光一郎会長）は29日、東京・八王子市の京王プラザホテルで17年度総会を開いた。総会では、16年度事業報告や17年度事業計画・収支予算案などを原案どおり承認。任期満了に伴う役員改選では、植村会長以下、道下泰治副会長・監事（三越伊勢丹フードサービス外販統括部外販事業部長兼水産・畜産事業部長）ら全員が再任した。

総会で植村会長（＝写真）は、「アソシエーションの総会は18回目を迎える。生産頭数は15年度が8,273頭、昨年は8,383頭の出荷となり、今期は9千頭の出荷を目指している。昨年、PEDが大型農場で発生してしまったことで、思ったほど出荷が伸びなかった。これから東京オリンピックに向けて、生産者と協力しながら増頭に向けて努力してゆきたい」と会員の協力を求めた。そのうえで、「今まで海外産豚肉は安価なものとして日本のマーケットに入ってきたが、近年は高品質なもの、ブランド化されたものが、どんどん入ってきている状況にある。これからTOKYO Xも、ますます美味しく安全で、さらに動物福祉などの分野にも取り組まないと、（海外産豚肉に）負けてしまうという危機感を持ちながら、生産・販売に取り組んでゆきたい。また、東京オリ・パラへの対



応については、長年取り組んできたため十分な体制が整っているが、あとはインバウンド対策だ。TOKYO Xはセット販売のため、外食に向けた商品供給が十分できていなかった。今期からはパーツ販売も行い、外食事業者の方たちに十分使ってもらえるような環境を作ってゆきたい。そのほか、海外に向けた情報発信や海外イベントへのアプローチ、東京産の名品としての認知活動も注力し、生産工程の優位性に関する情報発信にも取り組んでゆきたい」と意欲を見せた。

17年度事業計画では、①共同生産出荷に関する協議②流通・販売等の検討会の実施③枝肉目合わせ会の実施④トレーサビリティ検討委員会⑤積極的な認知活動の実施⑥食育事業参加⑦アグリネイチャー事業の参加⑧地産地消支援事業⑨生産拡大委員会の実施⑩農場HACCPの研究会参加⑪東京オリンピック・パラリンピック対策協議委員会の実施⑫インバウンド対応の情報発信と海外イベント事業参加⑬記念出版物の発行準備委員会の結成—などを実施する。

また、TOKYO Xの商標の管理については、年内中に図形商標登録を現在の（財）東京都農林水産振興財団から東京都に移行させて信頼性を高めつつ、「トウキョウX」「TOKYO X」「東京X」の3つの文言による商標取得も行い、さらなるブランド構築を図る予定だ。譲渡契約締結後の商標の管理は都の一元管理となるが、アソシエーションは従来通り制限なく使用が許可される。

○ 7日から期間限定、なすとアラビアータソースをトッピングした牛丼—すき家

すき家本部は7日から、唐辛子を利かせたトマトソースをトッピングした「なすアラビアータ牛丼」を販売する。パスタソースでおなじみのアラビアータソース。牛丼と相性の良いなすを食材に採用することで夏らしい季節感を前面に押し出したほか、トマトの酸味と唐辛子の辛さが食欲をそそる。ソースには、

刻みニンニク、玉ねぎ、セロリなどを加えることで、オリジナル性を追求している。並盛が税込み490円。販売は9月上旬まで。



【訂正】本紙5月31日付6面の「おうちでカナダビーフ」キャンペーンの記事で榎谷周一郎シェフの表記に誤りがありました。正しくは「榎谷周一郎シェフ」です。訂正してお詫びいたします。